

目標 2 生涯を通じた学びを支える³⁰

1 概要

- 公民館、図書館、生涯学習センター、博物館等については、第4次千葉市生涯学習推進計画の中心を担う学習支援施設となります。計画の推進に当たっては、各施設における着実な事業の実施が不可欠であることから、施設ごとに3つの施策展開の方向性にあわせて取り組み状況を評価することとします。
- また、教育委員会事務局が担う生涯学習・社会教育振興事業についても、学習支援施設が行う事業と同様に、施策展開の方向性とあわせて取り組み状況を評価することとします。

2 成果指標

(1) 公民館

① 公民館の概要

本市の公民館は、原則として1中学校区に1館設置しており、地域拠点として「つどい・まなび・つなぐ」役割を担っています。

各公民館では、地域住民の多様化する学習ニーズに対応し、各種学習講座を行い、社会教育の振興及び生活文化の向上を図っています。

② 施策展開の方向性1 学習成果が「生きる」地域づくりを進める

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
公民館文化祭参加者数	23,967	23,478	20,122	25,058	24,987	22,828	22,556	32,000
主な事業	○公民館文化祭の支援 公民館を利用するクラブ・サークルの日ごろの学習成果を発表する場として公民館文化祭を支援します。							

③ 施策展開の方向性2 市民生活や地域社会の課題を「学ぶ」機会を提供する

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
公民館の主催事業数	781	727	727	792	825	782	778	920
延べ受講者数	41,491	39,679	40,701	47,121	48,363	44,284	41,611	53,000

³⁰ 教育基本法第3条によれば、①国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、②その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、③その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が、生涯学習の理念とされている。

主な事業	○家庭教育支援の拡充 子育てママのおしゃべりタイム、親子ふれあい教室などを開催します。 ○少年教育 子どもチャレンジ広場、子ども科学教室などを開催します。 ○成人教育 パソコン講座、ボランティア養成講座などを開催します。 ○高齢者教育 高齢者携帯電話活用術、介護予防講座などを開催します。 ○団体・グループ活動の助成（指導者養成・育成事業） クラブ・サークル研修会、子ども会リーダー育成講習会などを開催します。 ○地域の交流事業 ふれあいコンサート、児童・生徒作品展などを開催します。
------	--

④施策展開の方向性3 学びを「支える」環境づくりを進める

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
公民館の施設 利用者数	1,226,298	1,236,779	1,184,309	1,173,183	1,185,863	1,140,861	1,169,136	1,237,000
主な事業	○公民館の施設利用状況 地域づくりを支える社会教育団体等を支援するため、施設を提供します。							

(2)図書館

①図書館の概要

中央図書館を中核とし、各区の地区図書館6館と6分館、1分室、移動図書館車1台27ステーション、さらに21の公民館図書室により市内全域に図書館サービスを提供しています。

さらに、すべての図書館・公民館図書室は、オンラインで結ばれ館内の端末機（OPAC）で資料の検索や予約できるほか、自宅のパソコンや携帯電話からもインターネットを通じ同じサービスを利用可能としています。

また、子ども読書活動推進計画（第2次）に基づき、子どもが読書に親しむ機会の充実を、学校等とも協力しながら進めています。

平成25年には市民により良い読書環境を提供するため、主にハード面における整備の方向性を示す「千葉県読書環境整備計画」を策定し、平成26年度は地区図書館の祝日・振替休日開館などの、ソフト面での充実を図りました。

②施策展開の方向性1 学習成果が「生きる」地域づくりを進める

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
地域おはなし ボランティア の登録者数	111	109	108	91	111	124	125	120

主な事業	○「地域おはなしボランティア」の養成と人材活用 「地域おはなしボランティア」の養成とスキルアップ研修を計画的に実施し、ボランティアとして各地域で読み聞かせやおはなし会を行う人材を育成し派遣します。
------	---

③施策展開の方向性2 市民生活や地域社会の課題を「学ぶ」機会を提供する

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
来館者数	2,922,627	2,926,015	2,947,441	2,836,125	2,763,818	2,686,226	2,691,564	2,947,000
貸出冊数	4,325,802	4,383,331	4,266,103	4,197,708	4,030,340	3,888,841	3,905,237	4,384,000
【参考】政令市平均の来館者数は平成25年度で3,295,715人、同じく政令市平均の貸出冊数は平成25年度で5,812,253冊となっている。								
主な事業	○資料の貸出 自主的な学習、調査研究、趣味、娯楽などのために必要な資料及び情報を利用者に提供しています。							

④施策展開の方向性3 学びを「支える」環境づくりを進める

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
図書館のレファレンスサービス件数	77,765	76,110	89,243	87,009	87,525	86,822	93,024	90,000
図書資料の蔵書数	2,021,238	2,061,758	2,099,858	2,156,624	2,203,389	2,220,148	2,225,630	2,276,000
【参考】政令市平均のレファレンスサービス件数は平成25年度で88,659件、図書資料の蔵書数は平成25年度で2,278,475冊となっている。								
主な事業	○レファレンスサービスの充実 利用者からの質問に対し、課題解決に役立つ資料や情報源を提供し、市民の学びを支えます。 ○図書資料の収集 市民ニーズに応えるため、資料の計画的な収集整備を進め、併せて寄贈による収集も行います。							

(3)生涯学習センター

①生涯学習センターの概要

生涯学習センターは、市民の誰もが気軽に立ち寄ることができる、千葉市の生涯学習の中核施設です。多様な学習講座や講演会を開催し、幅広く学習機会を提供するほか、学習相談やボランティアコーディネート等により市民一人一人の学習活動や地域で活躍する団体活動を支援しています。

②施策展開の方向性1 学習成果が「生きる」地域づくりを進める

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
ボランティアコ ーディネート件 数	—	—	—	118	144	162	198	190
まなびサポータ ーの登録人数	99	108	109	99	110	104	111	140
主な事業	○ボランティアセンターの運営 市内で活動するボランティアや団体の情報を収集し、講師や活動支援を 求める学習グループ等とのコーディネートを行っています。 ○学習ボランティア活動の支援 市民の知識と経験を生かすため、学習支援施設の事業を市民と協働で企 画運営します。							

③施策展開の方向性2 市民生活や地域社会の課題を「学ぶ」機会を提供する

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
生涯学習センタ ーの主催事業数	343	382	407	406	413	422	438	428
延べ受講者数	51, 198	52, 337	50, 751	52, 233	52, 564	44, 765	40, 510	54, 500
主な事業	○生涯学習に関する講座、講演会等の開催 「ちば」を学ぶ「ちばカレッジ」、親子や各世代を対象とした講座やニー ズをとらえた講演会等、「千葉市」に根差した独自性、専門性を有する学 習機会を提供します。 ○指導者等の養成 地域で活動する人材を育成するため、ボランティア等養成研修を実施しま す。 ○生涯学習活動の支援 学習成果を発表する機会の提供や市民企画講座等の開催、パソコン講座の 開催等の学習活動の支援を行います。							

④施策展開の方向性3 学びを「支える」環境づくりを進める

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
生涯学習センタ ー施設利用率	40. 3%	42. 5%	41. 2%	39. 3%	42. 6%	46. 1%	51. 6%	47%

主な事業	○生涯学習相談、生涯学習情報の提供 生涯学習情報を収集し、広く市民に提供するとともに、生涯学習センター及び他の公共施設等で学習相談を実施します。 ○学習活動の場の提供 市民の生涯学習活動の拠点施設として、ホール、研修室、会議室の貸出を行います。
------	--

(4)科学館

①科学館の概要

千葉市科学館は、日常の視点で科学を捉え、子どもから大人まで楽しめる参加体験型科学館です。活動を支えるスタッフやボランティアによる、人から人へのコミュニケーションを大切にした「人が主役」となる施設です。ふとした日々の疑問や、何気なく見過ごしている現象を科学と結びつけて紹介し、来館者と気づきを共有することを目指しています。

②施策展開の方向性1 学習成果が「生きる」地域づくりを進める

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
科学館ボランティアの延べ活動者数	5,608	6,578	7,074	8,001	8,530	8,436	8,293	9,000
主な事業	○ボランティア事業 科学館ボランティアによる館内外のワークショップ等での活動の支援を行います。							

③施策展開の方向性2 市民生活や地域社会の課題を「学ぶ」機会を提供する

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
教育普及事業の実施回数	218	285	318	324	322	295	294	330
延べ参加者数	5,023	9,422	12,307	16,238	18,616	17,591	17,896	22,500
主な事業	○教育普及事業 土日講座、サマースクール、クラブ講座、講演会など多種多様なイベントの実施や、多くの学校団体による科学館を活用した学習を実施します。 ○ボランティア養成・研修 科学館ボランティア育成のための新規研修・ステップアップ研修などを開催します。 ○先進的科学館連携推進事業 大学、研究機関、企業、市民等、多くの団体が関わった科学フェスタの開催、大学等と連携した先進的な科学講座、大人向けの科学講座、学校教育への支援として教員向け研修会を実施します。							

④施策展開の方向性3 学びを「支える」環境づくりを進める

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
科学館の入館者数	404, 735	354, 849	389, 213	384, 001	406, 205	379, 012	352, 373	412, 000
企画展の入館者数	29, 917	29, 740	42, 524	31, 300	47, 731	40, 196	43, 915	50, 000
プラネタリウムの入館者数	159, 063	132, 855	146, 117	142, 437	143, 253	129, 891	115, 375	145, 500
主な事業	○展示事業 常設展示と結びつけたワークショップの実施、携帯端末を利用した「プラスサイエンス」の運用及び企画展示を実施します。 ○プラネタリウム事業 星空解説やデジタル映像を映し出す一般投影、天文学習に対応した学習投影の実施、星空観察会などの天文事業を展開します。(H26 機器のリニューアルのため9月休映)							

(5)加曽利貝塚博物館³¹

①加曽利貝塚博物館の概要

加曽利貝塚博物館は史跡加曽利貝塚の指定地内に、野外博物館の中核施設として昭和 41 年に開館しました。

「貝塚を残したむらびとたち」をテーマとして、加曽利貝塚から発掘された縄文土器・石器・動物・魚や人骨等を展示し、東京湾周辺に住んでいた縄文時代の人々の生活のようすを分かりやすく解説しています。

8 月 1 日から 3 月 31 日まで休館し、博物館本館の老朽化に伴う改修工事を実施しました。

②施策展開の方向性1 学習成果が「生きる」地域づくりを進める

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
博物館ボランティアの延べ活動者数	1, 503	1, 688	1, 642	1, 289	1, 625	1, 728	1, 819	1, 800

³¹ 加曽利貝塚博物館では、国の特別史跡指定に向けて環境整備を進めている。

主な事業	○加曽利貝塚解説ボランティアの育成と連携 来館者へのサービスを向上するため、解説ボランティアを養成し、施設及び展示の解説、体験学習などを実施します。また、各種教育普及事業などをボランティアと市が連携して行います。
------	---

③施策展開の方向性2 市民生活や地域社会の課題を「学ぶ」機会を提供する

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
教育普及事業の事業数 延べ受講者数	8 464	8 912	8 976	6 386	8 1,295	6 596	6 816	8 1,600
主な事業	○教育普及事業 土器づくり講座、考古学講座及び郷土史講座などを実施します。							

④施策展開の方向性3 学びを「支える」環境づくりを進める

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
博物館の入館者数	11,813	15,916	15,345	15,844	17,838	16,400	9,975	30,000
企画展等の入場者数	7,659	10,709	10,167	9,023	10,502	10,537	2,923	18,000
主な事業	○管理・展示事業 市民の学習活動の場として、企画展や縄文土器作品展示などを実施します。							

(6)郷土博物館

①郷土博物館の概要

郷土博物館は昭和 42 年 4 月に、観光課の所管施設「千葉市郷土館」として開館し、昭和 51 年 7 月に教育委員会に移管され、昭和 58 年 4 月に「千葉市立郷土博物館」と館名を改め、9 月に博物館登録され、歴史・民俗系の博物館として活動しています。

②施策展開の方向性1 学習成果が「生きる」地域づくりを進める

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
博物館ボランティアの延べ活動者数	845	1,394	1,278	1,310	1,416	1,612	1,821	1,600

主な事業	○郷土博物館展示解説ボランティア 来館者の理解を深めるため、解説ボランティアが展示の解説などを行います。
------	---

③施策展開の方向性2 市民生活や地域社会の課題を「学ぶ」機会を提供する

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
教育普及事業の事業数 延べ受講者数	5 967	6 775	6 568	6 651	6 432	6 573	6 851	7 650
主な事業	○教育普及事業 歴史講座、ふるさと講座、体験学習、夏休み小・中学生郷土史講座、鎧作り体験講座、歴史散歩などを実施します。							

④施策展開の方向性3 学びを「支える」環境づくりを進める

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
博物館の入館者数	31,047	36,889	32,884	31,411	40,644	30,169	37,018	42,000
企画展等の入場者数	25,028	34,489	32,627	18,726	24,566	24,564	28,039	29,500
主な事業	○管理・展示事業 市民の学習活動の場として、企画展や特別展を開催します。							

(7)生涯学習・社会教育振興事業

①生涯学習・社会教育振興事業の概要

教育委員会事務局では、各学習支援施設などでの学習成果が地域づくりへ生きる仕組みづくりを進めるための生涯学習・社会教育振興事業を実施しています。

②施策展開の方向性1 学習成果が「生きる」地域づくりを進める

項目	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	目標値 (27 年度)
放課後子ども教室の年間延べ指導員・協力員数	—	30,634	29,291	26,443	26,523	24,522	24,617	52,000

子育てサポーターの延べ活動者数	266	217	245	236	286	305	322	432
主な事業	○放課後子ども教室の推進 小学校の施設を活用して、放課後の子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の多様な人々の参画を得て、さまざまな体験・交流活動などを実施する取り組みを全小学校で推進します。 ○家庭教育の支援 子育て中の保護者の仲間づくりや子育てに関する悩みの相談に応じるため、子育てサポーターによる「子育てサロン」を開催し家庭教育の支援を行います。							

③施策展開の方向性2 市民生活や地域社会の課題を「学ぶ」機会を提供する

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
放課後子ども教室関係者研修の参加人数	136	198	188	96	128	139	161	180
放課後子ども教室の年間延べ参加児童数	135,750	103,254	107,795	101,731	103,419	92,474	92,358	174,000
子育てサポーター研修会の参加人数	60	40	31	33	57	85	72	90
科学フェスタ関連のイベント数	—	—	—	173	317	295	404	400
主な事業	○放課後子ども教室の推進 小学校の施設を活用して、放課後の子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の多様な人々の参画を得て、さまざまな体験・交流活動などを実施する取り組みを全小学校で推進します。 ○家庭教育の支援 公民館における子育て支援を実施する子育てサポーターに対するスキルアップ講座（研修会）を開催します。 ○未来の科学者育成プログラム 科学に高い関心をもつ中学生・高校生に対し、その能力を伸ばすための質							

	の高い学習プログラムを提供し、千葉市内の大学等の研究機関や企業などが有する高度な科学技術を体験させることにより、未来の科学者を目指す意欲を高めます。 ○科学フェスタ 市民が日常生活の中で科学・技術を身近に感じることができる総合的な科学・技術の祭典として「科学フェスタ」を開催するとともに、様々な団体・企業等が、情報交換、連携することにより、サイエンスネットワークの構築を図ります。
--	---

④施策展開の方向性3 学びを「支える」環境づくりを進める

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
開放した小学校数	2	2	2	2	3	4	6	6
主な事業	○特別教室開放事業 学校・家庭・地域住民の連携及び協力を推進するため、地域住民に小学校の特別教室を開放し、地域における団体活動を支援することにより、子どもの健全育成、地域活動の活性化および生涯学習の振興を図ります。							

(8)文化財調査保護事業

市民意識醸成のために欠かせない千葉の歴史や文化を体現する多種多様な文化財を価値・内容に合わせて適切な保護措置をとるとともに、教育資源として活用します。

項目	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
千葉市指定および登録文化財の数	48	51	53	54	56	57	57	60
埋蔵文化財調査センターでの埋蔵文化財展示事業年間入場者数	4,081	3,505	3,557	3,863	4,770	3,196	3,720	5,500
出前授業を除いた埋蔵文化財調査センター文化財普及事業の延べ学習者数	3,300	2,540	3,515	1,709	2,000	2,358	2,495	3,000

埋蔵文化財調査センターの出前授業を利用する児童・生徒数（延べ数）	2,040	3,039	4,322	6,240	6,650	5,232	6,111	7,400
小中別の学校数	小 20 中 0	小 23 中 1	小 28 中 1	小 31 中 0	小 31 中 1	小 31 中 0	小 32 中 1	小 31 中 2
小中別の割合	小 16.5% 中 0%	小 19.0% 中 1.8%	小 23.1% 中 1.8%	小 26.3% 中 0%	小 26.3% 中 1.8%	小 27.4% 中 0%	小 28.3% 中 1.8%	小 27.2% 中 3.6%
主な事業	○文化財調査保護事業 文化財保護の一環として千葉市文化財の指定及び登録を行います。 ○文化財普及事業 勾玉づくりや火起こしなどの体験学習や文化財を身近なものとして学習するための講座等を、学校や公民館等の出前講座として実施します。 ○小学校における千葉市の文化財や伝統文化についての学習 小学校中～高学年において、加曽利貝塚を通して縄文人の暮らしなどを学習することで、文化財に親しむ心を育みます。また、郷土芸能などを保護・育成し、子どもたちが身近に郷土の伝統文化に接する機会を提供します。							

平成26年度の評価および今後の課題に対する対応方針

(1) 公民館(P54)

- 公民館については、年度事業計画に位置付けた各種事業を着実に実施し、成人教育や高齢者教育の講座数は昨年より増加したものの、少年教育講座は減少した。今後は、地域の特性、地域住民のニーズ等を収集・把握しつつ、参加比率の低い20歳代～50歳代の勤労世代など、幅広い層の参加を促していく。

(2) 図書館 (P55)

- 図書館については、子ども読書活動推進計画（第2次）、図書館サービスプラン 2010に基づき各種事業等を着実に実施することができた。

子ども読書まつりは、実施日が学校や幼稚園・保育所の行事等と重なってしまい、参加人数は平成26年度目標を下回ったが、実施内容や開催イベントについては、参加者から好評であった。昨年度9館だった実施館が、13館（土気図書室以外の全館で実施）になったのも大きな成果である。中央図書館では、次年度の実施を日曜日で検討している。

(3) 生涯学習センター(P56)

- 生涯学習センターについては、千葉市の生涯学習の中核施設として、様々なニーズに対応し、幅広い市民を対象とした多彩な講座・講演会や、「ちば」を多角的に学ぶ講座等、昨年を上回る 438 件の学習機会を提供したが、高齢者学習団体発表会の開催日数の減少等により、受講者数は延べ 40,510 人と前年度を約 4,000 人下回った。

一方で、出前学習相談や町内自治会に対する資料配布等、積極的に周知に努めたことにより、ボランティアコーディネート件数は 198 件と前年度を上回るとともに、市民の要望を踏まえたサービス向上等により、施設の利用率も 51.6%と増加傾向にある。今後も、市内の団体等とのネットワークを活用しながら、時代のニーズに的確に対応した事業を展開していくとともに、利用者の声を踏まえたサービス向上に努め、さらなる生涯学習振興を図っていく。

(4) 科学館(P58)

- 科学館については、昨年度に引き続き、動物公園や千葉県立中央博物館と連携し、各施設の活性化に向けたプロジェクトを実施するとともに、大人向けの科学講座を数多く開催した。昨年度は、プラネタリウム投影機器更新のため 9 月に休映したこともあり、来館者数は、352,373 人であったが、近年は、年間 38 万人程度の来館者数となっている。

今後は、千葉市科学都市戦略のキーステーションとなるべく事業展開を進めていくため、市主催事業との関連を図るとともに、学校教育との連携をさらに深めていく。

また、市内外の企業や産業とのネットワークを強固なものとし、より幅広い世代を意識した講座・イベントの実施や、市民ボランティアの育成を積極的に進めていく

(5) 加曽利貝塚博物館(P59)

- 加曽利貝塚博物館については、小学生からシニアまでの幅広い世代に縄文時代の貝塚文化や郷土の歴史を学ぶ機会を提供する事業として、考古学、郷土史の講座や、土器づくり、火起こし等の体験学習等の普及事業を実施し、受講者数は、前年度を大きく上回る延べ 2,224 人であった。また、展示事業においては、観覧者の加曽利貝塚に対する理解と関心をより深めることができるよう、解説ボランティアを養成し、展示解説を行っている。

広報活動としては、7 月に加曽利貝塚 PR 大使「かそりーぬ」を任命し、区民まつりなど各種イベント等に積極的に参加してキャンペーン活動を実施した。

また、8 月 1 日から 3 月 31 日まで休館し、老朽化による博物館本館の改修工事を実施したが、それに合わせて常設展示も近年の貝塚研究を基に、加曽利貝塚をわかりやすく解説するものとした。

今後は国特別史跡指定申請に向け、市民の気運を高め集客力を向上させるため、昨年度と同様「かそりーぬ」を活用したキャンペーン活動を行うとともに、歴史・学術的価値を広く普及するために企画展及び研究者による縄文時代研究講座を開催していく他、幅広い年代層が楽しめる新規のイベントなどを実施していく。

(6) 郷土博物館(P60)

- 郷土博物館については、多くの市民に郷土の歴史を学ぶ機会を提供するため、各種歴史講座をはじめ、鎧作り体験講座等の普及事業を実施した。また、展示事業においては、観覧者の作品に対する理解と関心をより深めることができるよう、解説ボランティアを養成し、展示解説を行っている。

さらに、平成 26 年度は、美術館、科学館や民間事業者と連携した観光イベントとしてミュージアムウォークやその他民間事業者と連携して開催した桜めぐり&ウォーキング、いのはな山文化祭、駅からハイキングについても多数の参加があり、好評を得ている。

今後もより多くの市民に郷土博物館の事業に関心を持ち、施設を利用していただけるよう、加曽利貝塚博物館はもとより、科学館、美術館、埋蔵文化財調査センター及び民間企業等との連携を密にし、観光的視点も盛り込んだ魅力的なイベントを企画、開催することで集客力の向上に努めていく。

(7) 生涯学習・社会教育振興事業(P61)

- 未来の科学者育成プログラムについては、中学生・高校生のニーズに対応できるように、総合コース・千葉大学連携コース・医療系コース・市立千葉高校 S S H（スーパーサイエンスハイスクール）コースの 4 コースを設定した。また、対象学年を中学 2・3 年生及び高校生とし、新たな連携機関を追加するなど、本プログラムの拡充を図った。その結果、受講生は、科学に対して更に意欲を高めることができ、将来について具体的なイメージを描くことができた。

平成 27 年度は、既存コースを再編成し、総合コースと医療系コースを一本化した生命・医療系コースと個人研究の支援を重視した探究支援コースを開設するとともに、2 つのコースにおいて対象学年を中学 1 年生にまで拡充していく。

また、新たに小学校 5, 6 年対象に、ジュニア講座を年 2 回開催していくとともに、新規連携先（かずさ DNA 研究所・千葉県環境研究センター）も増やすことで、質・量ともにプログラム内容の充実を図っていく。

- 科学フェスタについては、「千葉市科学フェスタ 2014 公式ガイドブック」を作成したほか、メインイベントにおける大人向け講座の充実や、総合展科学部門受賞者の表彰式・作品発表会の実施などにより、来場者数は 16,362 人となり、昨年度より 1,000 人以上増加した。

今後は、ターゲット先を考えた広報手段を工夫し、幅広い層からの参加を増やしていくとともに、市民意識の中に科学フェスタが定着できるような体制を構築していく。

- 特別教室開放事業については、平成 26 年 10 月から中央区・星久喜小学校と若葉区・都賀の台小学校を開放し、各区 1 校を整備した。

今後は、新たな学校施設開放制度や地域ニーズを踏まえ、今後の方向性を検討したい。

(8) 文化財保護事業(P63)

- 加曽利貝塚の特別史跡指定に向けては、引き続き総括報告書作成に向けた取組みを進めていくとともに、千葉市が加曽利貝塚をどのように守り伝えていくかを示す史跡保存管理計画の策定を行う。

- 文化財を活用した普及活動として、学校、公民館や放課後子ども教室等を対象に出前講座を行い、市民、児童・生徒から地域の歴史や古代の知恵などへの興味を引き出すことに努めている。
- 様々な文化財を総合的に把握し、保存して活用する視点が求められており、市内の文化資産の状況の把握と活用方法の検討が、大きな課題となっている。今後も、文化財が、地域の歴史と文化を体現するものであるため、より多くの人に知ってもらい、地域のきずなの核として後世に引き継ぐよう努めていく。
- 埋蔵文化財の保護については、開発行為に対する事業者への指導に努めていく。